

# act 7

art, culture, tradition

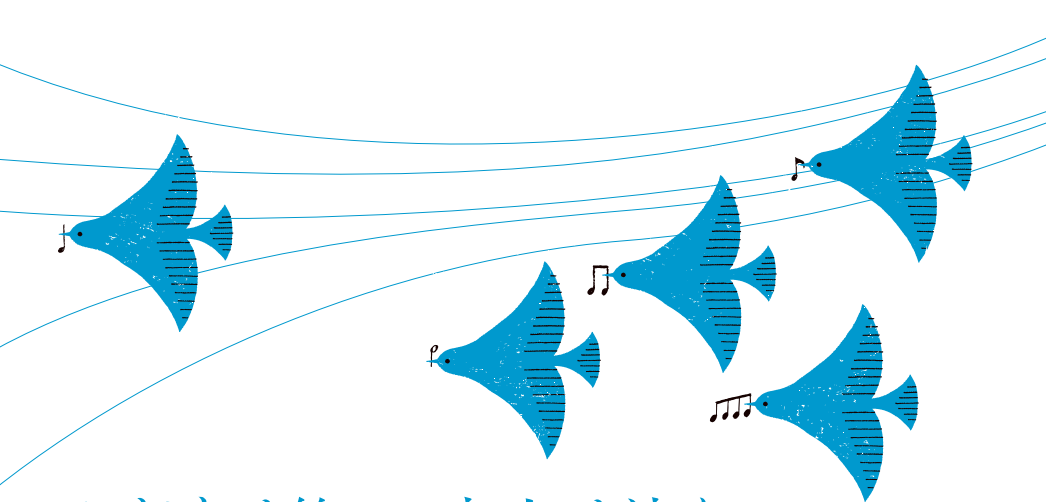
[発行] 札幌市教育文化会館  
アクト

NOVEMBER 2011



メルヘンオペラ

# Märchenoper



# こどもは笑い、大人は泣く。 不思議おもしろいメルヘンオペラ

オペラを観るなら、誰と行こうと思いますか？  
日本では大人の愉しみのように思われがちなおペラ鑑賞ですが、ヨーロッパでは大人に連れられて、子どももオペラを観に行くんです。幅広い年齢層のお客さんが観にくるから、大人も子どもも楽しめる童謡などをもとに作曲された作品がつくられ、「メルヘンオペラ」として親しまれています。けれど、「メルヘンオペラ」には名作中の名作、『魔笛』（まほうのふえ）をはじめ、子ども向けと

あなどれない作品がずらりそろっているのです。そもそも、「メルヘン」とは童話に限らず、昔から言い伝えられてきた民話や伝説なども含んだ物語のこと。大人になってふたたび出会ったメルヘンには、子どものころには気づけなかった深い意味が隠されていることもしばしばあるのです。不思議なメルヘンの世界を名曲とともに楽しむ。子どもは子どもらしく、大人は大人が目線で、メルヘンの世界をオペラで体験してみませんか？

## まほうのふえ

とらわれの身となったパミーナ王女を助けだすよう、夜の女王にたのまれたタミーノ王子は、鳥捕り男・パパゲーノをお供に旅立ちます。夜の女王から「魔法の笛」をもらった王子には、つぎつぎと試練がふりかかるのでした。王子は無事パミーナ王女と結ばれるのでしょうか？



## HÄNSEL UND GRETEL



## ヘンゼルとグレーテル

ドイツの深い森のなか。道にまよったヘンゼルとグレーテルの兄妹は「眠りの妖精」に眠らされますが、目がさめるとそこに、お菓子の家があらわれたのです。喜んで食べるふたりのうしろから魔女が近づいて…。

## AM AHL AND THE NIGHT VISITORS



## アマールと夜の訪問者

クリスマスの夜、足の悪い少年アマールのおうちに、旅の途中の3人の王様がやってきます。一晚、宿をかすことになりましたが、王様の宝物に目がくらんでしまったアマールの母親。お母さん思いの少年におこる奇跡の物語です。



# 知るほど深い メルヘンオペラ



まだまだ日本ではなじみの薄いメルヘンオペラ。  
本場ヨーロッパで愛され続けるメルヘンオペラの魅力とは。

## メルヘンとオペラ、 意外な相性

オペラといえば、愛したり裏切られたりど  
ドラマチックな「大人の」悲恋もの?と思いがち。  
だからメルヘンな世界は合わないかも…と思  
いきや、意外と相性が良いんです。

そもそも、作曲はイマジネーションの世界。  
現実には起こりえないことばかり起こりがち  
な童話に、作曲家たちはおおいにイメージをゆ  
さぶられたのでしょう。想像の世界なので衣  
装や舞台セット、仕掛けなども楽しめ、当時  
の作曲家たちはこぞってメルヘンオペラに挑  
戦しています。夢中になってつくったのか、子  
ども向けとは思えないほど緻密な曲だったり、  
聞く側は楽しくても、演奏する側は大変、な  
んていう曲もあるそうです。

## 遺作が多い?メルヘンオペラ

これが最後になるかもしれない、そう思  
たら、あなたはどんな作品をつくりますか?  
モーツァルトの時代はイタリアオペラが最も  
すぐれたオペラと思われていました。そのた  
めモーツァルトのオペラにもイタリア語で大  
人の人間模様を描いたものが多いのですが、  
彼が最後に作り上げたのは母国語・ドイツ  
語によ

るメルヘンの世界「魔笛」(まほうのふえ)  
でした。自分の国の言葉で、夢のある自由  
な世界を描きたい。そう思ったのかもしれ  
ません。モーツァルトの他にも、盲目の姫  
と王子の物語を描いたチャイコフスキー「  
イオランタ」/中国の氷のように冷たい  
姫の童話をオペラ化したブッチーニ「  
トゥーランドット」/生涯に喜劇は2作  
しか作らなかったといううちのひとつ、  
ヴェルディ「ファルスタッフ」。世界に  
名だたる作曲家たちがつくった最後の  
作品たち。子どものような純粋さと大  
人の思慮深さをミックスさせれば、  
何度でも楽しめる世界です。

## マイ・ファースト・オペラに するなら!

オペラは、セリフをすべて歌手が歌う  
劇です。さらに、日本語訳されずに上  
演されることもあるので、観る前  
にあらすじを予習したほうがいい  
ことも。でも、メルヘンオペラなら、  
子どもにもわかりやすく誰もが知  
っているストーリーばかりなので、  
楽しく、かまえずに観ることが  
できます。子どものころを思い返  
しながら、昔とは違う印象を  
楽しむのも、大人が観るメルヘ  
ンオペラの醍醐味です。オペラ  
っておもしろいの?という人が  
最初に観るなら、メルヘンオペ  
ラがオススメです。

## 童話でも有名な名作

モーリス・メーテルリンク原作

# 『青い鳥』

子ども向けの劇として書かれた「青い鳥」。チルチルとミチルが青い鳥探しの旅にでて、本当の幸せに出会う物語です。

### あらすじ

クリスマスイブの夜のこと。自分の家にはサンタが来ないと思っているチルチルとミチル兄妹の前に、妖婆が突然現れ、青い鳥を探してきてくれと頼みます。妖婆がくれた帽子で光、火、水、ミルク、砂糖、パン、それに、犬や猫たちの精と話せるようになったチルチルとミチルは、みんなを連れて青い鳥探しの旅に出ます。「思い出の国」では死んだ祖父母や弟、妹たちと再会し、「夜の御殿」では夜の女王が閉じ込めている幽霊や戦争に出会います。「森」では人間に対する木々や動物たちの怒りを聞き、「幸せの国」ではお金にはかえられない本当の幸せを知ることになります。最後にたずねた「未来の国」ではこれから生まれる弟に出会い、生まれてすぐに死んでしまうと知っていながらその運命に従おうとしていることを知ります。

いくつかの国を旅する途中で青い鳥をみつけますが、結局、捕まえても黒く色が変わってしまったり、死んでしまったりして持ち帰ることはできませんでした。目が覚めるとクリスマスの朝。一年も旅していたつもりなのに、全ては夢でした。しかし、貧しかった家の中は以前よりも輝いて見え、ふたりはいつのまにか飼っていた鳥が青くなっていることに気づくのでした。

### ほんとうのエンディング、知っていますか?

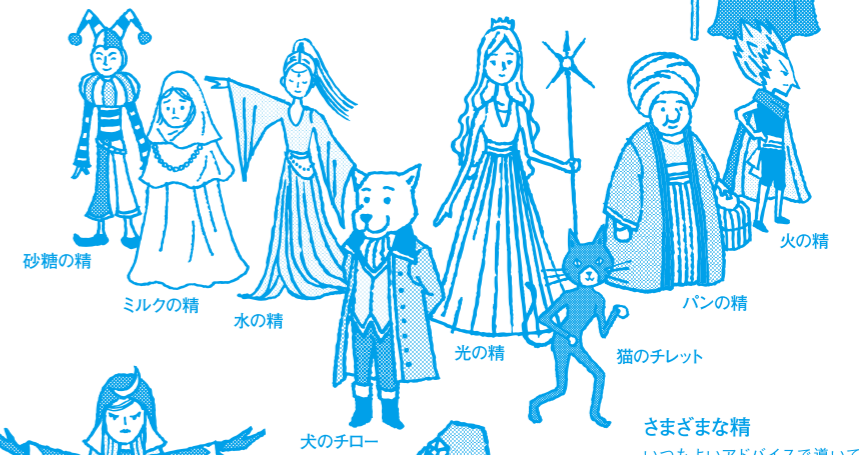
ときどき「青い鳥」は、絵本などで「なんだ、青い鳥はすぐそばにあったんだ」という終わり方で描かれていますが、原作では続きがあります。チルチルは、青い鳥が自分の家にいたことに気づきますが、病気の女の子がその青い鳥を欲しがっているとなると、女の子にあげてしまいます。病気がすっかり治った女の子はお礼を言い、青い鳥を連れてチルチルのもとを訪れますが、その時あやまって青い鳥を逃がしてしまいます。女の子は泣いて悲しみますが、チルチルはこういいます。「大丈夫、また捕まえればいいんだから。観客の皆さん、青い鳥をみつけたら、僕たちに教えてください。僕たちが幸せに暮らすために、きっと必要になるでしょうから」。さてこのエンディング、幸福は手にしたとたん、離れていってしまうという意味なのでしょうか。それとも…。原作をぜひ読み返して、みなさんの「幸せ」を探してみてください。

## 『青い鳥』

登場キャラクター紹介

### 妖婆ベリーリユヌ

娘の病気を治すために必要な青い鳥を探しにいくよう、チルチルとミチルに命じる。



砂糖の精

ミルクの精

水の精

光の精

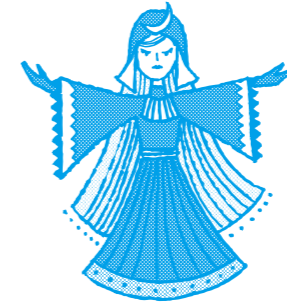
パンの精

猫のチレット

犬の子ロー

### さまざまな精

いつもよいアドバイスで導いてくれる「光」、旅の邪魔をしようとする猫のチレット、どっつきあずの砂糖の精など。旅が終わると彼らはいなくなってしまう。



### 夜の女王

病気が恐れなどを閉じ込めている「夜の御殿」の支配者。人間は間を減らしすぎていると思っている。



### 時の老人

「未来の国」の番人。子どもが必ず何か「才能」を持って地上に降りるよう目を配っている。



チルチル

ミチル

### チルチルとミチル

物語の主人公。妖婆にももらった帽子のおかげで、見えないものが見えるようになり、青い鳥を探して不思議な国の旅に出る。

## 大人になって読む「青い鳥」

「青い鳥」のストーリーは子どもの冒険物語に見えますが、実は多くの意味が込められています。「思い出の国」にいるもう死んでしまったおじいさんは、「思い出してくれば、いつでも会える」とチルチルたちを抱きしめます。「未来の国」のこれから生まれてくる弟は、生後すぐ

死ぬ運命だとい、「それじゃあ生まれる意味がない」というチルチルに、弟は「だってしょうがない」とだけ返します。一見、子ども向けにつくられた「青い鳥」ですが、ひとつひとつのエピソードには大人だから感じ入る言葉が盛り込まれています。

## クリスマスオペラって?

きよしこの夜のメロディーが街中で聞こえるようになると、よく上演されるオペラ作品。その由来をほんの少しご紹介。



### ヘンゼルとグレーテル

このオペラは、作曲者のフンパーディングが妹ヴェッテの子どものために、グリムの童話を家庭劇にした作品。その後、これをもとに本格的なオペラとして作曲しなおし、1893年12月23日、にワイマール宮廷劇場にて初演され大喝采を浴びました。以来、「ヘンゼルとグレーテル」は、世界中で愛され、クリスマスの時期に上演され続けています。

### アマールと夜の訪問者

主人公アマールの家に「すばらしい子どもに貢ぎ物を捧げるため、旅を続けている」3人の王様が現れる物語。新約聖書ではイエスキリストの誕生を祝うために東方から3人の賢者がプレゼントを抱えてやってきたとされており、この物語の背景となっています。イエス生誕のクリスマスに起きた心温まるオペラとして、アメリカではクリスマスにテレビで放送されるそうです。

### 魔笛(まほうのふえ)

これもクリスマス定番オペラ。実際に初演されたのは1791年9月ですから不思議に思えますが、クリスマス・シーズンになると子どもたちが生まれて初めて観る「マイ・ファースト・オペラ」として上演されるそう。幻想的な夜の国やおどけたパバゲーノ、なによりモーツァルトの名曲など子どもが夢中になれる要素がたくさん盛り込まれている名作オペラです。

## 音楽家たちが思わずオペラにしたくなった

# 超有名な童話の作家たち



### イソップ

【ギリシア 紀元前619年～紀元前564年ごろ】

「イソップ寓話」をつくったと言われている作家。「兎と亀」「蟻とキリギリス」「北風と太陽」など、「イソップ寓話」には動物や虫、自然などを中心にした物語が多く収められている。

### グリム兄弟

【ドイツ 1785～1863(兄)、1786～1859(弟)】

言い伝えられてきた民話などを書きとめ、一冊にまとめたのが「グリム童話集」。「ヘンゼルとグレーテル」「白雪姫」など世界中で翻訳され、読み継がれています。

### シャルル・ペロー

【フランス 1628～1703】

「赤ずきん」「シンデレラ」「長靴をはいた猫」など、民話を集めた「ペロー童話集」の作者。グリム兄弟やマザー・グース童話集よりも前に民間伝承をまとめている。

### アンデルセン

【デンマーク 1805～1875】

「人魚姫」「みにくいアヒルの子」「マッチ売りの少女」「裸の王様」などが代表作。グリム童話とは違い、創作童話を描き続け、その数は150編以上にもなります。

## ほかにもある、オペラになった童話

「メルヘンオペラ」と呼ばれるジャンルがあるくらい、オペラと童話は相性抜群。原作との違いなどを比べながら鑑賞するのもオススメです。

### シンデレラ (イタリア語/チェネントラ)

作曲:ロッシーニ

誰もが知っている「シンデレラ」ですが、オペラになると魔法の要素はゼロに。シンデレラが落とす「ガラスの靴」は「腕輪」に、「魔法使いのおばあさん」は王子の「家庭教師」に置きかえられます。そのかわり、王子と従者が入れ替わるなどの「変装」が舞台を盛り上げ、お城での華麗なアリアなど、オペラならではの魅力で楽しませてくれます。



### 人魚姫 (ルサルカ)

作曲:ドヴォルザーク

悲恋の物語を、ハープにのせて美しいメロディーで歌われるオペラ。まさに、音楽によって描かれた「人魚姫」の絵本といえます。

### いばら姫 (眠れる森の美女)

作曲:フンパーディング

こちらもおなじみのストーリーをオペラ化。セリフも歌で表現するのがオペラですが、曲の間をナレーションでつなぎ、筋書き説明するという形がとられているので、オペラと劇音楽の中間的な作品です。